

問9 本文の内容と合致するものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **16**。

- ⑦ 職人の仕事は過酷なものであるため、高齢になると続けることが難しい。
 ⑧ 年配の職人の手は、冷たい冬の仕事をこなしているため皆節くれだつてこつこつしている。
 ⑨ 創意工夫を凝らすことは、他の職業と同様、建築職人の仕事においても求められることがある。
 ⑩ 歴史的建造物の修復は、美しく仕上げてどこを取り替えたのかわからないようにすることが目的である。
 ⑪ 古建築の修復は気を遣う面倒な仕事であるが、生きた歴史的情報に触れることができる。
 ⑫ 職人の仕事の出来不出来の判断を下すのは、創建時の職人である。

第二問 次の文章を読み、後の問い(問11～14)に答えよ。

なぜ「病」は起こるのか――。

神の怒り? あるいは呪い?

私たち人間は長くこの問題と向き合ってきた。なかでも感染症は、ヒトからヒトへ伝播し、集団そのものが大きな被害を受けるという特性ゆえに恐れられてきた。にもかかわらず、その原因は一七世紀になって近代医学が、感染症の本体(「細菌やウイルスといった微生物」)を明らかにするまで長く不明であつた。さまざまな迷信が病気を彩つてきた。

宗教の **A** がいつに遡るか。様々な議論がある。明らかな証拠はない。だが宗教的思考の最初のかたちが、死者を悼む儀式として表象した可能性は高い。儀式的埋葬は、生と死、死後世界の想像といった世界観と関わるからである。

ネアンデルタール人は死者を埋葬した最初のホモ属だったという。イラクのシャニダール、クロアチアのクラピナ、イスラエルのケバラ洞窟などにその痕跡が残る。埋葬が、生と死の認識や死後世界の想像と関わっていたとすれば、それは、原始的だが神の存在を予感させるものであつたに違いない。とすれば、壊滅的な規模で集団に死をもたらす疫病が神の怒りだとする考え方は、太古からヒトという種に刻まれた記憶に由来する、といえるかもしれない。

ペルー、ボリビア、エクアドルを中心に栄えたインカ帝国は一五世紀に成立して以降長く栄えた。最盛期には八〇の民族と一六〇〇万人の人口を抱え、**B** ハントは現在のチリ北部からアルゼンチン北西部にまで広がった。その帝国が一五三三年に滅びる。わずか数百人のスペイン人の手によって。原因は、スペイン人が持ち込んだ感染症の流行にあった。天然痘が、続いて麻疹が流行し、さらに発疹チフスが追い討ちをかけた。免疫を持たない先住民たちの人口は一〇分の一にまで減少した。

当時の記録を要約すれば以下のようになる。

一五三二年一月一日、スペインの **(1)** 征服者ピサロは、インカ帝国皇帝アタワルパとペルー北方の高地カハマルカで対峙した。アタワルパの率いる兵士は八万人であつた。ピサロは、一六八人の土地に不案内な部隊を率いているだけだった。さらにいえば、カハマルカ高地は、最も近いスペイン人居留地から一六〇〇キロも離れた場所にあつた。にもかかわらず、ピサロはこの戦いに勝利した……。

事実は以上であるが、**(2)** 戦いの勝敗は両者の遭遇前にすでに決まっていた。アタワルパがピサロに勝利する可能性はなかった。 **B**、たとえあつたとしても、インカ帝国がスペインからの征服者を退ける道は残されていなかったというのである。

疫病は神の怒りだ――というのは、当時、多くの人々が信じているところだった。その神の怒りが、

自分たちに[C]慈悲な鉄槌を振り下ろす一方、スペイン人には振り下ろされぬ。征服者であるスペイン人が一方的に神の恩寵を受けているという事実、住民は憐れいた。スペインの征服者が、どれほど人数が少なく、どれほど残忍かつ卑劣であったとしても、住民たちにそれに抗う力は残されていなかったというのである。

歴史研究家のウィリアム・H・マクニールは以下のように述べる。

「聖なる理法も自然の秩序も、はつきりと原住民の伝統と信仰を非としていた以上、抵抗ということにどんな根拠が残っていたと言ふのか。スペインの征服事業が異常なほどの容易さだったこと、また、わずかに数百人の男が広大な地域と数百万の人間をがっちり支配し得た事実は、このように考へてきて初めて理解できる」(『疾病と世界史』ウィリアム・H・マクニール著 佐々木昭夫訳)

(3) こうした認識を変えたのが、近代医学の⑥ボッコウであった(心情部分では、依然として変わっていないところがあるにしても)。近代医学は、感染症が神の呪いでも怒りでもなく、微生物が引き起こす病気であり、ワクチンや抗生物質によって制御できることを、観察と実験によって示した。一七世紀、レーウェンフックは、この世界に私たちの目に見ることのできない微生物が存在することを示し、パスツールやコッホは病原体の本体を明らかにした。エールリヒや琴佐八郎は化学療法への道を拓き、フレミングは人類初の抗生物質を発見した。

当時三三歳の看護師に対してベニシリンが投与されたのは一九四二年三月二日のことだった。看護師は一カ月にわたって激しい発熱に苦しんでいた。体温は四一度を超え、幻覚が現れた。レンサ球菌感染による産褥熱が原因だった。看護師は死の淵を彷徨っていた。若い主治医は当時未承認のベニシリンを投与することにした。最初のベニシリンが、ニュージャージー州にある製薬会社から送られてきた。刺激臭のある茶褐色の粉末は食塩水に溶解され、四時間ごとに静脈内投与された。

効果は劇的だった。二日後の朝には、体温は平熱に下がり、患者は旺盛な食欲を示した。

患者の尿が集められ、製薬会社へ送り返された。投与されたベニシリンの九五パーセントは尿から排出される。患者の尿から希少なベニシリンが再[D]された。看護師は、その後五年以上を生き、二一世紀を迎える前年、九〇歳で亡くなった。

抗生物質の出現によって、(4)第二次世界大戦下のアメリカは、人類史上初めて、感染症で亡くなる兵士の数が銃弾で亡くなる兵士の数を下回ることに成功した国となった。

それが今、(5)新たな問題を突きつける。

私たちはこれまで、ヒトを一個の独立した存在だと考えてきた。今それが間違っている可能性が指摘され始めた。「私」は、実は「私」に常在する細菌とともに「私」を構成している、というのである。そうした「私」はマイクロバイオータと呼ばれる常在細菌叢との相互作用を通して、

生理[E]や免疫を行動させ、私たちヒトをかたち作る。常在細菌叢の種類は一〇〇種類を超え、その数は数百兆個(ヒトの細胞数は約六〇兆個)にも及ぶ。総計数千グラム。遺伝子総数約三〇〇万個。ヒトの約三〇倍の数の遺伝子が、私たちの身体内で常時発現しているのである。そのマイクロバイオータが今、大きな攪乱に見舞われている。抗生物質の過剰使用や帝王切開の乱用、伝統的食生活の変化によって。

大まかな推計で言えば、ヒト常在細菌叢は、三分の一が人類に共通で、三分の一が人種や地域に共通で、三分の一が個人で異なる。そうした細菌叢は、祖母から母、母から子、子から孫へと継代され、三歳までに個人の微生物相の骨格が決まる。帝王切開や乳幼児期における抗生物質の過剰使用はその骨格を動揺させ、長く受け継がれてきた細菌叢の多様性を消失させる。あるいは希少だが重要な細菌(中枢細菌)の喪失を引き起こす。それが病気の発症リスクを亢進させるといふのである。

肥満や糖尿病、自閉症、食物アレルギー、炎症性腸疾患、がん……など。

これらの病気は過去三〇年に大きく増加した。「現代の疫病」とも呼ばれる。マイクロバイオータの多様性や、あるいは中枢細菌の喪失がその発症リスクを高める。これは新たな医学的パラダイムを私たちに突きつける。

近代医学は、とりわけ感染症において、病原体の「存在」を同定し、病原体の「存在」を排除することによって、(6)その存在意義を示してきた。しかしマイクロバイオータの多様性の消失や中枢細菌の喪失が突きつける問題は、ある種の「不在」が、病気を引き起こす可能性を指摘する。「現代の疫病」は、私たちにそのことを教えてくれる。

そしてそれは病原性を有するといわれる細菌についてさえ、そうなのかもしれない。

長くヒトに常在する細菌の一つにヘリコバクター・ピロリと呼ばれる細菌がある。そのピロリ菌は、消化管潰瘍や胃がんを引き起こす。抗生物質によるピロリ菌の根絶は消化管潰瘍や胃がんの発症を抑制する一方で、ピロリ菌の不在は逆流性食道炎や食道がん、あるいは喘息を引き起こす。

一つの事象が[F]点と欠点を併せ持つ、こうした両義的な動きを「アンフィバイオーシス」と呼ぶ。自然界ではよく見られる現象である。

さらに、抗生物質は感染症への感受性を飛躍的に高めるといふ重要な事実もある。通常であれば感染には数万個が必要になるサルモネラ菌も、抗生物質投与後には、わずか数個で感染が成立する。

抗生物質の使用がいけないわけではない。抗生物質がいかに劇的な効果を示すか、私たちはこれまでにも見てきた。その過剰使用が問題なのである。抗生物質の過剰使用は、[G]菌を生み出すだけでなく、感染症や免疫性疾患に罹患しやすくなるという、まさに「抗生物質の冬」の時

代をもらすことになる。注意の上にも注意が必要である。

(山本太郎「人は独りでは生きていけない——受け継ぐもの、手渡すもの」による)

問1 傍線部③・④に使用する漢字として最も適当なものを、次の各群の⑦～⑫のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は、④は **17**・⑥は **18**。

③ ハント ⑦ 斗 ⑩ 吐 ⑫ 都 ⑬ 渡 ⑭ 塗

⑤ ボッコウ ⑧ 功 ⑨ 考 ⑪ 効 ⑫ 構 ⑬ 興 ⑭ 講

問2 空欄 A に入る語句として最も適当なものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **19**。

⑦ 危言 ⑩ 奇幻 ⑫ 奇言 ⑬ 帰元 ⑭ 期限

⑧ 起源 ⑨ 機嫌

問3 空欄 B に入る語句として最も適当なものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **20**。

⑦ 否 ⑩ 非 ⑫ 不 ⑬ 未 ⑭ 無

問4 空欄 C に入る語句として最も適当なものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **21**。

⑦ 否 ⑩ 非 ⑫ 不 ⑬ 未 ⑭ 無

問5 空欄 D に入る語句として最も適当なものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **22**。

⑦ 正声 ⑩ 西征 ⑫ 濟世 ⑬ 清静 ⑭ 聖世

⑧ 精製 ⑨ 整斉

問6 空欄 E に入る語句として最も適当なものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **23**。

⑦ 氣孔 ⑩ 氣候 ⑫ 奇行 ⑬ 紀行 ⑭ 起工

⑧ 寄稿 ⑨ 機構

問7 空欄 F に入る語句として最も適当なものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **24**。

⑦ 汚 ⑩ 加 ⑫ 減 ⑬ 弱 ⑭ 得

問8 空欄 G に入る語句として最も適当なものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **25**。

⑦ 大勢 ⑩ 体制 ⑫ 体勢 ⑬ 対生 ⑭ 耐性

⑧ 胎生 ⑨ 態勢

問9 傍線部(1)「征服」とあるが、同じ意味で「服」が使用されている熟語として最も適当なものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **26**。

問10 傍線部(2)「戦いの勝敗は両者の遭遇前にすでに決まっていた」とあるが、勝敗を決めたものは何か。その説明として最も適当なものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **27**。

⑦ スペイン人が持ち込んだ感染症の流行。

⑩ 両者の兵士数の違い。

⑫ 高地カハマルカについての地理的知識。

⑬ スペイン人居留地からの距離。

⑭ 征服者の退却する道がなかったこと。

問11 傍線部(3)「こうした認識」とあるが、どういう認識か。その説明として最も適当なものを、次の⑦～⑫のうちから一つ選べ。解答番号は **28**。

⑦ 先住民の伝統と信仰を非と考えること。

⑩ 感染症の流行を神の怒りと考えること。

⑫ 神は先住民に恩寵を与え、スペイン人に鉄槌を振り下ろしたと考えること。

⑬ 数百人の男で、広大な地域と数百万人を支配することが可能だと考えること。

⑭ 征服者たちが残忍で卑劣なため、先住民は抗うことができなかったと考えること。

問12 傍線部(4)「第二次世界大戦下のアメリカは、人類史上初めて、感染症で亡くなる兵士の数が銃弾で亡くなる兵士の数を下回ることに成功した」とあるが、このことは何を意味しているか。その説明として最も適当なものを、次の⑦～⑭のうちから一つ選べ。解答番号は **29**。

- ⑦ 第二次世界大戦下のアメリカでは、感染症で亡くなる兵士の数が多かったということ。
- ⑧ 第二次世界大戦下のアメリカ以外の国では、銃弾で亡くなる兵士が多かったということ。
- ⑨ 第二次世界大戦下のアメリカは、銃弾による戦死者の数を減らすことに成功したということ。
- ⑩ 第二次世界大戦より前の戦争では、銃弾よりも感染症で亡くなる兵士の数が多かったということ。
- ⑪ 第二次世界大戦より前の戦争では、感染症の流行のため、集められる兵士の数が足りなかったということ。

問13 傍線部(5)「新たな問題」とあるが、どのような問題か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑦のうちから一つ選べ。解答番号は **30**。

- ① このままでは抗生物質の使用が禁止されるかもしれないという問題。
- ② 数兆個にも及ぶ常在細菌叢が、私たちの身体内で常時発現しているという問題。
- ③ 抗生物質の過剰使用によって、感染症や免疫性疾患に罹患しやすくなるという問題。
- ④ ヒトに常在するビロリ菌によって、消化管潰瘍や胃がんを引き起こされるという問題。
- ⑤ 戦争の絶えない現代にあつて、銃弾で亡くなる兵士の数を減らすにはどうしたらよいかという問題。

問14 傍線部(6)「その」とあるが、何を指しているか。その内容として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は **31**。

- ① 「現代の疫病」
- ② 近代医学
- ③ 病原体の「存在」の同定
- ④ 病原体の「存在」の排除
- ⑤ 感染症

第三問 次の文章を読み、後の問い(問1～6)に答えよ。漢字で答える解答は、楷書で丁寧に記入すること。

『李香蘭』を生きて(私の履歴書) (山口淑子著) は、かつて李香蘭の名で知られた著者の自叙伝である。

彼女の人生はまさに大河ドラマそのものだ。李香蘭として銀幕デビューを飾ったのは、日中戦争開始の翌年、一九三八年のことである。日本人でありながら中国人女優としてデビューし、一躍大スターになった。主役の李香蘭を色どる脇役たちは「夜の帝王」甘粕正彦、「男装の麗人」川島芳子など、それぞれがピカレスクロマンの主人公になりうる人物たちだ。

李香蘭の華麗で波乱に **A** んだ人生は映画やドラマにもなっているが、本書を読むと、その後の「山口淑子」としての人生もまた波瀾 **B** でじつに面白い。

日本の敗戦によって売国奴として死刑になり **C** になった著者は、辛くも窮地を脱し日本に帰り着く。戦後は本名の山口淑子として再び銀幕に **C** り咲き、黒澤明監督の作品やハリウッド映画に出演、ブロードウェイの舞台にも立った。彫刻家のイサム・ノグチと結婚し、魯山人の敷地に邸宅を **D** えたこともある。さらには参議院議員に当選し、政治の世界でも活躍したのだ。

(成毛眞の文章による)

問1 空欄 **A** に入る漢字一字を書け。解答は記述式解答欄 **a**。

問2 空欄 **B** に適当な語句を入れて四字熟語を完成させたい。漢字二字の語句を書け。解答は記述式解答欄 **b**。

問3 空欄 **C** に入る漢字一字を書け。解答は記述式解答欄 **c**。

問4 空欄 **D** に入る漢字一字を書け。解答は記述式解答欄 **d**。

問5 傍線部(1)「そうに」の品詞名を漢字で書け。解答は記述式解答欄 **e**。

問6 傍線部(2)「イン」を漢字に直したとき、その漢字の部首名をひらがなで書け。解答は記述式解答欄 **f**。